

2章

ITを活用した授業改善モデル

ここでは、1章で大学教育改革にITの活用が避けられない喫緊の課題であることを受けて、授業改善にITをどのように活用することが可能なのか、日本文学、英語教育、法学、経済学、経営学、会計学、物理学、機械工学、建築工学、経営工学、栄養学、被服学、生活・住居学、医学、歯学、薬学の16分野の授業について、実施している若しくは実施が可能な授業のモデルを紹介する。

本章では、16分野でのITの活用実態について、1分野3例から6例程度の活用方法を選定し、授業運営の中でどのような場面で、どのように使用することが効果的であるのか。教室の雰囲気、授業のシナリオ、デジタル教材の実例、授業の効果または学生の反応、今後の課題について紹介し、授業にITを活用することの可能性と限界を理解いただくことにした。

その上で、分野の異なる授業においても、活用方法にそれほどの差異がないことと、活用する上で配慮すべき点のイメージを持っていただき、関心のない教員が、授業改善のためにITの活用を本格的に始められるようにした。

モデルとしては、5年先の授業を想定したが、ITの革新とともに授業での活用方法も異なってくることから、現在を起点に考えられる内容とした。内容としては、分野によって若干、表現が異なるところがあるが、基本的には以下のような枠組みとした。

第一に、「分野別の教育目標と問題点」とし、それぞれの分野の教育目標を確認し、教育目標に対して学生の理解が期待した通りとなっているか、理解が得られていないとすれば、考えられる原因を明確にする。

第二に、「授業改善のためのIT活用の意義」として、問題点を受けて、一つの手段としてITを活用してどのように授業運営の改善が図れるのか、また、その重要性を説明する。

第三に、「IT活用の課題」として、授業にITを導入することにより派生する課題について、網羅的に言及する。例えば、授業改善に対する大学ポリシーの策定、授業を支援するための組織体制の在り方、他大学及び学外関係者との連携、授業改善に対する教員評価、学生の基礎能力向上のための学習環境、自学自習の徹底と情報環境、双方向授業実現のための情報環境、教員の情報技術能力の養成、教材等の電子化促進などについて指摘する。

第四に、「ITを活用した授業モデルの設定」について、これからの授業にITをどのように活用することができるのか、また、活用の必要性を事例紹介ごとに明示する。

第五に、「IT授業モデルの紹介」として、できるだけ以下の項目に沿って紹介することにした。

授業のねらい（学生にどのような理解、能力を修得させるのか）

シラバス（前提知識・能力も含める）

ITを導入した授業の運営（ITを活用している授業1コマを抽出し、90分授業の中でどのような場面にITを使用するのか、どのような場合に使用しないのか、授業のシナリオを描きITの可能性と限界を明示）

IT活用授業の内容（授業での教材の活用など詳細に紹介）

ITを活用した授業の効果（学生からのアンケート、聞き取りなどを紹介）

IT導入に伴う今後の課題（モデル授業の隘路と課題克服のための方策について言及）